

| | | | | | |
|-------------------|---|------------|-----|------------|----------|
| 都道府県・指定都市番号 | 24 | 都道府県・指定都市名 | 三重県 | 研究課題番号・校種名 | 1 高等学校 |
| | | | | 教科等名 | 家庭（共通教科） |
| 研究課題 | 学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 | | | | |
| 学校名（生徒数） | 三重県立あけぼの学園高等学校（224人） | | | | |
| 所在地（電話番号） | 三重県伊賀市川東 412 （0595-45-3050） | | | | |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL | http://www.mie-c.ed.jp/hakebo/ | | | | |
| 研究のキーワード | パフォーマンス課題，評価計画，ルーブリック，指導と評価の一体化 | | | | |
| 研究結果のポイント | <p>○年間指導計画に沿った「評価計画」の作成・・・テーマ別に重点的に評価する観点を明らかにし，年間指導計画に沿った評価計画を作成した。</p> <p>○確認テストの実施・・・定期テストは実施せず，ワークシート・リフレクションシートの小テストの内容を出題範囲にして，年間5回の確認テストを実施し，学習内容・知識の定着を図る取組を行った。</p> <p>○生徒の実情に応じたルーブリックの更新，「指導と評価の一体化」を図る取組・・・テーマごとに事前に作成したルーブリックとリンクした自己評価表を生徒に示し，概ね満足できる状況などの評価規準を事前に生徒に伝え指導に生かした。また，評価規準から観点別のA，B，C評価につなげるよう整理し，「指導と評価の一体化」を図る研究を行った。</p> <p>○パフォーマンス課題の深化・・・生徒に「課題」と「条件」と「評価のポイント」を明確に伝え，課題に取り組ませたことにより「指導と評価の一体化」につながった。また，生徒は他のグループの動画を視聴し，他のグループの発表やグループワークの様子を知り，生徒同士で行った相互評価などから自分自身の取組を主体的に振り返り，改善点や今後に生かせる点などをリフレクションシートに記入することができた。これらの記述から教師は「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることができた。</p> | | | | |

1 研究主題等

(1) 研究主題

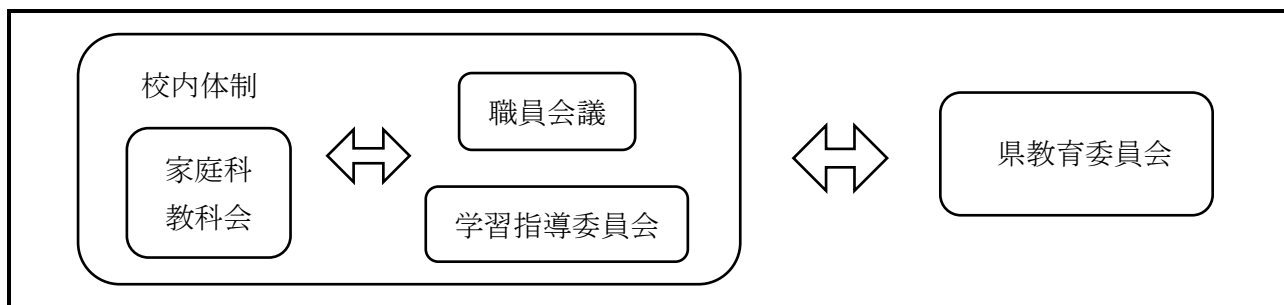
「家庭基礎」における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた課題設定の工夫～パフォーマンス課題の効果的な活用方法と学びを深めるリフレクションシートとルーブリックの開発～

(2) 研究主題設定の理由

本校は，平成11年に普通科を改編し，1学年2クラス規模の総合学科で，全国でも珍しい美容服飾を始め，製菓調理，健康福祉，情報教養の四つの系列を設置している。各系列は，生徒の興味・関心，進路希望等に合わせた多様な科目を設置したり，地域と連携した活動を多く取り入れたりするなど，特色ある教育課程を編成している。その結果，「意欲的に学ぶ生徒が増加し，近年では地域からの期待も大きい」が，基礎学力の定着については十分とはいえない」という課題が残っている。このような現状から，生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現，「できる喜び」や「学びのつながり・深まり」の実感を目指し，昨年度から本主題を設定し実践を行ってきた。今年度は昨年度の

実践の反省を受け「指導と評価の一体化」に重点に置き、「指導方法」の研究と適切な「評価計画」の研究を深めていきたいと考える。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

| | | |
|-------|-----------|--|
| 令和2年度 | 4月 | 年間計画の作成と授業実践，教材の検討 |
| | 8月21日（金） | 学習評価，ICTを活用した実践研究についての研修会（オンライン） |
| | 10月5日（月） | 授業公開・協議会（オンライン） |
| | 11月17日（火） | 学習評価，ICTを活用した実践研究についての研修会（オンライン） |
| | 1月15日（金） | 授業公開（オンデマンド） |
| | 1月21日（木） | 教科調査官からの助言及び指導（オンライン） |
| | 1月29日（金） | 京都市教育委員会教員養成支援室 専門主事 岸田蘭子先生より「資質・能力を育成するパフォーマンス評価について～ループリックを用いた学習評価のあり方～」講演会（オンライン） |
| 令和3年度 | 4月 | 年間指導計画と年間指導計画に沿った「評価計画」の作成 授業実践，教材の検討 |
| | 5月26日（水） | 学習評価，ICTを活用した実践研究に関する研修会（オンライン） |
| | 6月23日（水） | 指導主事からの助言 |
| | 8月6日（金） | 授業実践に関する検討会（オンライン） |
| | 11月19日（金） | 教科調査官からの助言および指導 |
| | 12月2日（木） | 授業実践に関する検討会 |

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①年間指導計画に沿った「評価計画」の作成
- ②ワークシート・リフレクションシートの改善
- ③確認テストの実施
- ④生徒の実情に応じたループリックの更新
- ⑤パフォーマンス課題の深化

(2) 具体的な研究活動

①年間指導計画に沿った「評価計画」の作成

昨年度同様，毎時間1つのテーマを設定し，1つ1つがテーマ学習であると考え年間指導計画を作成した。今年度はそのテーマ別に重点的に評価する観点の課題を明らかにし，年間指導計画に沿った評価計画を作成した。

②ワークシート・リフレクションシートの改善

昨年度同様、テーマ別に 90 分で完結するワークシート・リフレクションシートを活用した。今年度は昨年度使用したものを細かい部分の調整を行いながら授業で活用したが、多様な生徒に対しての合理的配慮として大きく 2 点改善をした。1 点目はワークシート・リフレクションシートのレイアウトを「A 3 横」から「A 3 縦」に変更したことである。シートの上から下へと順に学びを進めることにより、生徒が授業の流れを把握しやすくなった。2 点目はリフレクションシートの感想・わかったこと・疑問に思ったことの記入欄を変更したことである。記入する項目と場所を明確にすることで、生徒たちが意見を記入しやすくなった。

③確認テストの実施

昨年度同様、学習した内容の小テストをリフレクションシートの最後に載せ、生徒自身がどれくらい理解できたのか、どこが理解できていなかったのかを毎時間振り返った。今年度はさらに各ワークシート・リフレクションシートの小テストの内容を出題範囲にして、前期 2 回、後期 2 回、学年末に 1 回、確認テストを実施し、学習内容・知識の定着を目指す取組を行った。今年度も定期テストは実施しなかった。

④生徒の実情に応じたルーブリックの更新、「指導と評価の一体化」を図る取組

今年度は昨年度の生徒の評価を参考にしてあらかじめルーブリックを作成した。提出された生徒の課題をそのルーブリックと照らし合わせグループに分け、それぞれのグループの評価と合っているか確認した。ルーブリックは目の前の生徒の実態を踏まえて練り直す必要があるため、昨年度のものをそのまま使用できるとは限らないが、今年度は昨年度のものを大きく変更する必要はなかった。リフレクションシートの自己評価表は、あらかじめ作っておいたルーブリックとリンクしたものを生徒に示し、概ね満足できる状況などの評価規準を事前に生徒に伝え指導に生かした。また、これらの評価規準から観点別の A, B, C 評価につなげることができるよう整理し、「指導と評価の一体化」を図った。

⑤パフォーマンス課題の深化

昨年度と同様、パフォーマンス課題を「契約の重要性」と「ホームプロジェクト」で実施した。昨年度の取組の反省から、生徒に「課題」と「条件」と「評価のポイント」を明確に伝え、課題に取り組ませた。「契約の重要性」の課題は「皆さんは消費生活講座を行うため中学校に行くことになりました。これまで学習した内容の中から、中学生に知っておいて欲しい内容をわかりやすく伝えるための動画を 60 秒で作ってください。」とし、各グループ 5 人程度で動画作成を行った。今年度の 1 年次生は全員タブレットを持っているためタブレットでの撮影を条件の 1 つとした。評価のポイントは「わかりやすく伝える工夫をしているか」「テーマにあった内容か」「一番伝えたいことが伝わっているか」「自分役割を果たしているか」「決められた条件で作られているか」とし、教師の評価、自己評価、生徒同士の相互評価を組み合わせ評価を行った。生徒同士の相互評価は、動画の発表会でを行った。ワークシートに QR コードを貼りつけ、生徒はタブレットでそれを読み取りオンラインのアンケート機能で回答した。各グループの動画を視聴後各グループの動画について「話し方」、「内容」の 2 項目の評価を 5 段階で行った。全グループの評価を行った後、総合的に一番よかったと思ったグループと、よかったと思った理由を回答させた。生徒は他のグループの動画を視聴し、発表やグループワークの様子を相互評価することで自分自身の活動を振り返り「今回の自分自身の動画の内容・制作・発表・グループワークでの改善点はなにか」「今後に生かすことが出来る点はなにか」を主体的に考えることができた。これらをリフレクションシートに書かせることで「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることができた。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

○テーマ別のワークシート・リフレクションシートやパフォーマンス課題を取り入れたことで生徒は見通しを持って授業に取り組むことができた。

○ワークシート・リフレクションシートでは、これだけは覚えて欲しい、知って欲しい、考えて欲しいという内容を「本時のめあて」として生徒に示し、授業の最後に小テストを行うことにより、本時のめあてとリンクさせて今日の授業を主体的に受けることができたかどうか、どの程度理解できたのかを振り返る時間を持たた。

○各ワークシート・リフレクションシートの小テストの内容を出題範囲にして、前期2回、後期2回、学年末に1回、確認テストを実施したことで学習内容・知識の定着につながった。

○パフォーマンス課題では、生徒に「課題」と「条件」、そして「評価のポイント」を明確に伝えて課題に取り組ませたことにより、「指導と評価に一体化」の取組を行うことができた。

○パフォーマンス課題では、教師の評価、自己評価、生徒同士の相互評価を組み合わせて評価を行った。相互評価は生徒同士からのフィードバックであるため生徒は理解しやすく、自分自身の取組の反省、改善、学びの深まりを促すことができた。また、教師はリフレクションシートから生徒一人ひとりの「主体的に学習に取り組む態度」を見取るなど、多面的に評価を行うことができた。これらの評価は、この後に取り組んだパフォーマンス課題において、それぞれの取組に生かすことができ、生徒自身の「学びのつながり・深まり」を実感することができた。

●自己評価表は、生徒に「ねらい」や「評価のポイント」をより伝わりやすくするために、文章を簡潔に、焦点を絞り、わかりやすい表現になるよう改善する必要がある。

●学習前と学習後の生徒の変容を見取り、「主体的に学習に取り組む態度」の評価につなげるために、リフレクションシートは「单元ごと」もしくは「内容のまとまりごと」の1枚ポートフォリオに変更するなどさらに工夫する必要がある。

●「指導と評価の一体化」につなげるために、評価計画を整理し、どの場面でどの観点を評価するか、どのような評価規準で評価するかを明らかにし生徒の指導に生かすことが必要である。

4 今後の取組

2年間の本事業で、ICTを効果的に活用しながら、生徒の学びの定着、深化、学びに向かう力を育む取組を行ってきた。本校には多様な生徒がいて、自分の思いを書いたり話したりすることが苦手な生徒も多い。ICTを自分自身の思いや学んだことを表現するツールとして用いたことで、生徒に「できる喜び」「学びのつながり・深まり」を実感させることはある程度達成できたのではないかと考える。昨年度は目の前の多様な生徒たちにどんな力を育成し、それをどうやって評価するのかという「指導と評価の一体化」の必要性を痛感したため、今年度はさまざまな取組を模索して行った。今後はこれらのことを踏まえ、生徒1人ひとりが主体的に取り組める「指導方法」の深化、どの場面でどの観点を評価するのか、どの評価規準で評価するのかを明らかにし、生徒の指導に生かすための「年間指導計画に沿った評価計画」の整理についての研究を深めていきたいと考える。また、来年度から実施される新学習指導要領に向け、教科のみの研究にとどまらず、カリキュラムマネジメントの視点から学校全体の課題として、校内の学習指導委員会等で今後もより一層研究を深めていきたい。

